

東海地域における甘長ピーマンの有機栽培法

岐阜県農業技術センター、
(独)農研機構 中央農業総合研究センター・野菜茶業研究所・東北農業研究センター

鶏糞や菜種かす等を用いた有機質肥料による肥培管理体系、防虫ネット被覆に天敵昆虫の放飼や有機JASで使用の認められる農薬散布を組み合わせた病虫害防除体系を基盤として、ハウス半促成作型の甘長ピーマン有機栽培体系を検討しました。

1

課題および産地の背景

- 岐阜県の西南部地域では、ビニールハウスを利用した甘長ピーマンの生産が盛んで、4月～8月に甘長ピーマン、10月～3月にシュンギク、という組合せによる作付体系が一般的です。
- 私たちは、地域特産野菜である甘長ピーマンの高付加価値化を狙い、有機栽培技術の開発に取り組みました。

2

肥料は基肥に鶏糞、追肥に菜種かす

- 施肥は、基肥に鶏糞、追肥には菜種かすや魚かす等を用います。この時、鶏糞(現物)1tからえられる有効なN成分量(kg)は、

$$(\text{窒素含有率[現物]\%})^2 / (1 - \text{水分含量\%/100})$$
 で計算します。
- 基肥、追肥を合わせた施肥成分量は、慣行栽培と同量とします。
- 上記による施肥設計で慣行栽培とほぼ同等の収量性がえられます。

3

病虫害防除はどうする?

- 目合0.4mm程度の防虫ネットでハウスを被覆すれば、微小害虫の侵入は抑制できます。
- アブラムシ類やタバココナジラミには気門封鎖剤の散布、また、アブラムシ類にはコレマンアブラバチやナミテントウ等の利用も可能です。
- アザミウマ類には、ブースター法(地場で採取したアカメガシワクダアザミウマとタイリクヒメハナカメムシの交互放飼)が有効です。
- うどんこ病は水和硫黄剤で防除します。
- モザイク病は弱毒ウイルスの接種やナバナ等の非宿主植物を輪作することで発生を抑制できます。



アカメガシワクダ
アザミウマ幼虫

